

## 虐待防止研修会の開催について

令和6年9月6日

法人本部事務局長 佐藤明子

全職員を対象として虐待防止(権利擁護)研修会を開催しました。

研修会は8月22日・23日・27日・28日に開催し、職員はいずれかの研修に必ず参加することとしました。

研修の前半は、当法人施設で実際にあった不適切と思われる事例について、主任以上の職員がファシリテーター役となり、グループ討論(異なる職場の職員で構成)を行いました。研修の後半は、グループ毎に発表された討論内容について、当日のアドバイザー<sup>※1</sup>から質問や感想をもらい、これに各グループのファシリテーター役の職員が応答するというディスカッション形式により進めました。

グループでは、事例のどこが不適切だと思うか、それはなぜか、必要なケアであればどのような対応をすべきか、どうして不適切ケアは起こるのかを話し合いました。身近な不適切ケアを事例としたことから、「余裕のなさ」や「仕事のストレス」、「職員間のコミュニケーション不足」などが原因で起こるのではないかと、不適切ケアを行った職員だけではなく職員全員の問題だと思う等、自分事として考え、真剣な話し合いがなされました。

事例の一つの、「ご利用者を愛称や〇〇ちゃんと呼ぶ」について、グループ討議では、実例として、もともと愛称として呼ばれていた等<sup>※2</sup>、不適切とは言えない場合もあるのではないかと、日頃の疑問をぶつけるような活発な意見交換がありました。「ちゃん付け」は虐待に当たると学びますが、今回の討論では、知識として知るだけでは十分ではなく、腑に落ちるまで話し合うことの重要性を感じた場面でした。

また、各回、アドバイザーから心に響く言葉がありました。

- ①「人としてどうか」を考えること
- ②尊厳・価値観を大切に
- ③自分はどうかを常に自分に問いかける
- ④「人と話すこと」が職場環境改善につながる

参加職員からはこうした研修を繰り返し行うことが大切である、実際にあった不適切ケアを隠さずに共有できたことは良かった、話し合えたことがとても良かった等の感想がありました。

### ※1 アドバイザー

- ・地域在宅ケアコンシェル COCONURS 在宅看護専門看護師 徳田 喜恵子 氏
- ・一般社団法人障害者・難病者自律支援研究会 代表理事 齋藤 直希 氏
- ・社会福祉法人輝きの会 医療介護連携参事 看護師 矢口 聡子 氏

### ※2 「もともと愛称として呼ばれていた」

- ・長年、愛称で呼ばれていた方に、その呼び方で言葉をかけると、表情が良い(と自分は思う)との発言であった。